



HOT! NEWS

『全日本高校模擬国連大会』に出場決定！

11月に東京で開催される『第7回 全日本高校模擬国連大会』に出場することが決まった伊藤優璃也さんと菊澤萌さん。目前に迫った大会への意気込みを聞きました。

名古屋国際高校から初めての参加！

世界各国の立場から地球規模の課題について討論をすることで、国際問題への理解を深め、コミュニケーション能力を磨く「模擬国連」。本校でも6年生の選択科目「Media English」のカリキュラムとして取り組んでいますが、今回、伊藤優璃也さん(中高一貫5年生)と菊澤萌さん(中高一貫4年生)が参加する『全日本高校模擬国連大会』は、日本各地から一次選考を通過した高校生が「集まる」全国大会”。本校の生徒が出場するのは初めての快挙となります。

「一次選考を通過したと聞いた時は、驚きと喜びが同時にこみ上げてきて、なかなか実感が湧きませんでした」と、出場決定の瞬間の気持ちを振り返ってくれた伊藤さん。実は2人が『全日本高校模擬国連大会』の存在を知ったのは数ヶ月前のこと。英語科の橋本啓市先生に勧められたことがきっかけ



▲「入念に準備をして、自信を持って発表したい」と伊藤優璃也さん(中高一貫5年生)

でした。知識も経験もなく「どんなことをするのかさえイメージできなかった」と菊澤さんが言うように、2人の挑戦は“ゼロ”の状態から始まりました。

目標は来年5月の国際大会への出場

2人が最初に取り組んだのは、一次選考の課題論文の作成。「国際問題と自分とのつながり」、「アフリカにおける中国の援助と開発について」という難しいテーマでしたが、課題書籍を何度も読み返し、インターネットから情報を集めながら、約2ヶ月をかけて根気よく論文を書き上げました。「事実を並べるだけでなく、自分なりの意見をうまくまとめることができた」という作品は見事に一次選考を通過。全国で65組だけが参加できる“本会議”へと2人を導いてくれました。

「調べるほどに知識が増え、国際問題に対する理解も深まっていっ

た」(伊藤さん)という論文作成での体験から、模擬国連への意欲が日に日に高まっている2人。11月の全国大会では新たに「児童労働」というテーマのもと、アルゼンチンの立場から討論に臨みます。「児童労働は以前から興味があったので、新しい知識を得られることがとても楽しみ。しっかりと準備をして本番を迎えたいです」と意気込みを語ってくれた菊澤さん。また、小学生の頃に4年間、フィリピンで過ごした経験がある伊藤さんも、「児童労働は実際に自分の目で見た光景でもあるので、その経験や感情を言葉に込めて、聞いている人の心に響くスピーチにしたい」と目を輝かせます。指導に当たる橋本先生も2人の熱意に目を細め、「全国から集まる国際社会への関心が高い高校生との交流を通して皆さんの刺激を受け、今後の学校生活や将来の目標実現につなげてほしい」とエールを送ります。

『全日本高校模擬国連大会』で優れた演説を披露すると、来年5月にニューヨークで開かれる国際大会への参加資格が与えられます。「目指せ！ニューヨーク」を合い言葉に討論に臨む2人が、嬉しい知らせを届けてくれることに期待が膨らみます。■



▲「模擬国連を通して視野を広げたい」と菊澤萌さん(中高一貫4年生)

Feature

2015年4月に本校で始まる「国際バカロレア ディプロマ・プログラム(以下、IBDP)」。2年後のスタートを前に、プログラム受講を検討中の生徒(現中学3年生)とその保護者の素朴な疑問・質問に、本校IBDPのコーディネーターを務めるティム・デイリー先生が分かりやすく答えます。

国際バカロレア ディプロマ・プログラム
生徒・保護者の目線から、その特色を紹介します。

世界で約2,000の大学が入学基準に採用

ティム・デイリー先生(以下ティム先生)：今日は皆さんの質問に答えながら、IBDPについて分かりやすく説明したいと思います。素朴な疑問など何でも聞いてください。

河尻真奈美さん(保護者)：そもそもIBDPとはどのようなプログラムで、なぜ導入されることになったのでしょうか？

ティム先生：IBDPの最大の特色は、国際社会で活躍するために必要なさまざまな資質を養う、“世界水準”の教育カリキュラムにあります。また、国際感覚に優れたグローバル・リーダーを育成することは、本校が創立以来掲げている教育方針の柱でもあります。長期的なプロジェクトとして準備を進めてきた結果、いよいよ2015年4月に本校の理想とするカリキュラムを提供できる運びとなりました。

河尻翔君：僕は将来、海外の大学に進みたいと考えています。IBDPを受講すると海外の大学への進学が有利になると聞いたのですが本当ですか？

ティム先生：IBDPのプログラムを修了し、最終試験に合格する



▲「先生の話聞いてIBDP受講への意欲が高まった」と河尻茉彩さん(中高一貫3年生)



▲将来は海外の大学への進学を希望している河尻翔君(中高一貫3年生)

と、国際的に通用する大学入学資格が与えられます。IBDPのスコアを入学基準として採用している大学は、ヨーロッパやアメリカを中心として世界に約2,000校あり、一定のスコアを残すことで奨学生の対象となったり、大学での単位の一部を認定する学校もありますので、翔君のように海外の大学を目指す生徒にとっては、非常にメリットの多いプログラムだと言えます。

河尻茉彩さん：私はまだ希望進路がはっきりしていません。日本の大学を受験する場合にも、IBDPのスコアは利用できるのですか？

ティム先生：もちろん、日本にも入学基準として採用する大学があり、今後はより多くの学校で採用されることが予想されています。なにより、主体的に学ぶIBDPの学習スタイルは、大学での学びの準備としても大いに役立ちますので、すべての生徒にとって得るものは大きいと思います。

高度な知性と人間性を育てるカリキュラム

河尻真奈美さん：通常の高校カリキュラムと、IBDPのカリキュラムの違いについて教えてください。

ティム先生：IBDPのカリキュラムは、6つの専門科目群と「TOK(Theory of Knowledge:知識の理論)」や「CAS(Creativity, Action, Service:創造性、活動、奉仕)」といった特徴的な科目で構成され、互いを密接にリンクさせることで、身につけた知識を実社会で活用する能力が養われます。実際に、IBDP取得者の高度な思考力や表現力は非常に高く評価されていて、大学合格率も一般受験者と比べて高くなっています。

河尻翔君：授業は英語で行うのですか？

ティム先生：本校のIBDPの目標は「海外の大学で活躍できる英語力を身につけさせること」ですから、原則として英語で行います。また、授業はディスカッションを中心に展開されますので、受講する生徒には一定水準の英語力が求められますが、本校の中高一貫カリキュラムで意欲的に学ぶことで受講に必要な英語力は十分に身につけられます。

河尻茉彩さん：気になるのはクラス分けや授業の受け方。IBDPを受講する生徒だけのクラスができるのですか？

ティム先生：ホームルームはこれまで通り、通常の高校カリキュラムの生徒と一緒にになります。「この時間はIBDPの授業のために教室を移動する」という感じで、選択科目のように考えるとイメージしやすいかもしれませんが、もちろん、IBDPを受講する生徒も、通常の高校カリキュラムに必要な授業は受けなければなりません。

河尻真奈美さん：ということは、IBDPを受講する生徒の負担も大きくなるのですか？

ティム先生：全体の授業時間数は通常の高校カリキュラムと同じですから、負担にはならないはずです。ただし、「CAS」や「EE(Extended Essay:課題論文)」のように放課後に取り組む授業もありますし、より高度な内容の学習に取り組むので、対応の“心構え”は必要です。

IBDPの授業評価を、通常カリキュラムの成績に

河尻茉彩さん：評価の方法について教えてください。中間や期末のように定期試験はあるのですか？

ティム先生：IBDPは2年間のプログラムで、5年生・6年生というカテゴリー区分はありません。学習進度に合わせて「アクティビティ(小テスト)」に取り組みますが、評価はあくまでも最終試験の結果になります。現在のところ、IBDPの科目を通常の定期試験に組み入れる予定はありません。

河尻翔君：もしIBDPの最終試験に合格できなかった場合はどうなるのですか？

ティム先生：本校ではIBDPの授業評価を、通常の高校カリキュラムの成績として独自に評価しますので、仮にIBDPの最終試験に合格できない場合でも本校の卒業資格は得られます。

河尻翔君：それを聞いて安心しました。今日はIBDPについているるな質問ができて良かったです。

河尻茉彩さん：私もIBDPの受講にさらに意欲が湧きました。どうもありがとうございました。■



▲「保護者の立場からいろいろな質問ができて良かった」と河尻真奈美さん

▶国際バカロレア機構アジア太平洋
洋州オフィス担当者によるIBの説明の映像は、下記の名古屋国際中学校・高等学校のホームページから見ることができます。

<http://www.nihs.ed.jp/>



THE FRONTIER TIMES

Report

① 慶應義塾大学法学部に吉本有李君
(普通科進学コース)が見事合格しました！

合格の秘訣は、受験を面白いと感じられたこと

画家をしている父の影響もあり、幼い頃から芸術に触れる機会が多かった私は、ごく自然に「将来は芸術に携わる仕事をしたい」と考えるようになりました。進学先に慶應義塾大学法学部を選んだのは、法律という視点から広く芸術に関わろうと思ったからです。私が利用したFIT入試は、「この大学で学びたい」という生徒と「この学生を教えたい」という教授をマッチさせる慶應義塾大学独自の入試制度で、一次・二次試験を通して「自分は大学でこんな学びをしたい」という目標や熱意をアピールしました。FIT入試では課題そのものが自分を内省し、自分を知るためのガイドラインのようになっていたので、一つ一つの課題に向きあうたびに自分が本当にやりたいことが明確になっていき、“面白さ”を感じながら取り組めたことが合格につながったのだと思っています。また、大学受験を通して実感したのは、どんな小さなことであっても自分の得意分野を持っておくことの大切さです。名古屋国際中学校・高等学校には個性を発揮する場と、それをサポート

してくださる魅力的な先生がたくさんいます。とくに大学入試では、“合格するための指導”ではなく、“入学後や将来を考えたアドバイス”をしていただいた先生方には本当に感謝しています。恵まれた環境を活かすかどうかは私たち生徒の心がけ次第。後輩の皆さんも、普段から自分の得意なことを意識して、積極的な姿勢で学校生活を有意義なものにしてほしいと思います。■



▲慶應義塾大学に合格した吉本有李君(普通科進学コース3年生)

② 第6回 フロンティアカップが
開催されました

去る8月29日、第6回フロンティアカップ英語スピーチコンテストが盛大に行われました。応募者・観客あわせて約120名が会場に集まり、小中学生のスピーチに聴き入りました。

本校のネイティブファカルティが運営の全てを行う、恒例のフロンティアカップ英語スピーチコンテスト。6年目となった今年は、過去最高の出場者数を記録しました。

国際水協力年ということで、私たちの生活に必要な不可欠な水にスポットを当てた「International Year of Water Cooperation」が課題(小学生)のテーマ。創作は「What I'm Most Proud Of」「New Horizons, New Frontiers」をテーマ(小中学生共通)として個性豊かなスピーチが集まりました。大勢の観客が見守る中、練習を重ねた小中学生たちが、堂々と身振手振りを交えながらのスピーチを繰り広げました。■

●小学生の部

フロンティアカップ
原田 桜子さん(名古屋市立大須小5年)
愛知県知事賞
大友 志穂さん(愛教大付属小6年)
名古屋市長賞
宇佐美 愛さん(土岐市立下石小6年)

●中学生の部

フロンティアカップ
石塚 寿里杏さん(南山国際中1年)
愛知県知事賞
河本 茜さん(岡崎市立岩津中3年)
名古屋市長賞
浅井 莉子さん(名古屋市立駒方中2年)

